

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26870349

研究課題名(和文) 東アジアで受容される日本の女性向けポピュラーカルチャーが示す男性像の実証的研究

研究課題名(英文) An Empirical Research of the Male Figures in Japanese Popular Culture for Women that are Popular in East Asia

研究代表者

東 園子 (AZUMA, Sonoko)

大阪大学・人間科学研究科・招へい研究員

研究者番号：40581301

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、宝塚歌劇の台湾の観客の観点から、宝塚歌劇と他の日本の女性向けポピュラーカルチャーに共通する特徴を分析することで、それらで提供される女性の理想の男性像の性質と、そのような男性像の表現を可能にする特徴を明らかにするものである。

宝塚歌劇の男役と、少女漫画の男性キャラクターと、日本の男性アイドルにおいては、外見に女性的な要素があることが、女性的な心や立場を持つことと直結しない。それらでは、ジェンダーの様々な側面が切断され、組み替えられている。それが可能になる理由の一つは、それらにおける「西洋」という要素によると考えられる。そこでの「西洋」は、女性にとっての夢の世界として機能している。

研究成果の概要(英文)：This research analyzes the features of the all-female Japanese musical company, Takarazuka Revue shared with other aspects of Japanese popular culture for women and considers the nature of ideal male figures for women provided by them and the aspect of the space that makes it possible to express such male figures by determining what Taiwanese female audiences of Takarazuka Revue consider the characteristics of Japanese popular culture for women to be. For the male role players at Takarazuka Revue, male characters in girls' manga and the Japanese male pop stars in the boy pop bands, having a feminine appearance does not indicate having a feminine mind and position. In them, the various aspects of gender are cut into pieces and rearranged. One of the reason that it is possible for these Japanese popular culture for women to deconstruct gender may be the element of the West in them. The West in them functions as a fictional dream world for women.

研究分野：社会学

キーワード：宝塚歌劇 少女漫画 男性アイドル ポピュラーカルチャー 男性像 ジェンダー 女性文化

1. 研究開始当初の背景

第二陣世界大戦終了後の日本で中心的だった男性性 (masculinity) は、「男は仕事、女は家庭」という近代型性別役割分業に基づいた、一家の家計を支える“一家の大黒柱”だった。だが、2012年の就業構造基本調査で男性雇用者のうち非正規雇用者の割合が22.1%になるなど、“一家の大黒柱”という旧来の男性イメージを実現できる男性は少なくなってきた。

これまでDVの研究などで、女性に対する男性の暴力には男性性へのこだわりが関わっている傾向がしばしば指摘されてきた。既存の「男らしさ」を達成できないのではないかという男性の不安は女性への暴力的な行為などに向かう。

現在の経済構造などからすると、“一家の大黒柱”となることのできる男性は今後も減少すると考えられる以上、新たな理想的男性像の構築は、男性のアイデンティティ不安を解消するためにも、社会の安定のためにも必要だと考えられた。

2. 研究の目的

そこで、本研究では、日本の少女マンガ・男性アイドル・宝塚歌劇といった女性向けのポピュラーカルチャーが提示する男性像に注目した。それらは女性に向けて作られたものではあるが、女性に人気の男性アイドルが男性向けファッション誌にも登場していることなどが示すように、男性からも魅力的な男性像として受け入れられる可能性がある。女性向けポピュラーカルチャーが示す男性像からは、女性を抑圧せず、男性にとっても理想となるような男性像を考えるための示唆を得られると考えられた。

そのような日本の女性向けポピュラーカルチャーの中の男性像は、日本のみならず、海外、特に東アジア圏の女性たちからも受け入れられている。日本の女性向けポピュラーカルチャーが示す男性像が、ジャンルの違いを超えて持っている共通した特徴を探ることで、既存の「男らしい男」に代わる、現代的な新たな男性イメージを模索し、また、そのような男性イメージがいかなる条件のもとで可能になっているのかを探求することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、日本の女性向けポピュラーカルチャーの中の男性像を、日本とは異なる文脈から相対化するために、海外での受容者の観点を取り入れることとした。

そのために好適と考えたのが、研究代表者の以前からの研究対象である宝塚歌劇が行

った台湾公演の観客である。宝塚歌劇は2013年と2015年に台北市で公演を行い、台湾を代表する劇場でほぼ満席となる成功を収めた。客席には日本から駆けつけた宝塚ファンなど日本人らしき姿も見られたが、多くは現地の人たちで、舞台に対して熱狂的な反応を見せていた。

また、台湾では、特に若い世代において、日本のテレビドラマやアニメ、音楽など、女性向けのものもそうでないものも含めて、日本のポピュラーカルチャーが広範に受容されている。そのため、宝塚歌劇と他の日本の文化と比較できるだけの知識を持つ人が多い。

さらに、台湾には歌仔戯 (クアーヒ) という、宝塚歌劇と同じく女性が男性を演じる演劇がある。歌仔戯は、京劇に代表される中国の「戯曲」と呼ばれる演劇ジャンルの一つで、閩南語 (台湾語) で上演される。1890年代に下層階級の娯楽として始まり、大衆的な演劇として発展した。近年は伝統的な台湾文化として称揚されている。歌仔戯と宝塚は、男性を演じる女性の役者が登場するほかにも、演目が恋愛物語中心であり、ファンの中心は女性という共通点が存在する。歌仔戯は寺院の祭りでも上演されることなどから、熱烈なファン以外にも広く親しまれている。その点からも、台湾には独自の観点から宝塚歌劇の男性像の特徴をとらえられる人が多いのではないかと考えられた。

そこで、宝塚歌劇の台湾公演を観劇した現地の女性たちと歌仔戯の劇団等の関係者にインタビュー調査を実施した。あわせて宝塚歌劇台湾公演の劇場とその周辺等でフィールドワークを行った。

4. 研究成果

(1)

まず、調査対象者の背景等が、彼女たちの宝塚歌劇に対する印象にも影響を与えると考えられたため、それを理解するための一助として、彼女たちがどのように宝塚歌劇という日本のポピュラーカルチャーに対する関心を形成したのかについて分析を行った。

宝塚歌劇は、台湾公演以前は台湾での知名度が低かった。だが、インタビュー対象者は、台湾公演が発表される以前からその存在を知り、関心を持っていた。それを可能にしたのは、日本のポピュラーカルチャーに日常的に接触していたことがある。その背景には、世代的に日本のテレビ番組に親しむことが可能になったメディア環境と、家族に日本と関わりのある人や日本文化に関心の高い人がいる家庭環境があった。調査対象者が宝塚歌劇に関心を持った背景には、日本と台湾の情動的近接性と物理的近接性が関わっていることが明らかになった。

(2)

次に、宝塚歌劇の男性像を理解するには、その最大の特徴である、男性が女性によって演じられることによって、どのような男性像が可能になっているのかを考える必要があると考えた。そのために、歌仔戲の関係者から見た、宝塚歌劇の男役の特徴を分析した。

歌仔戲関係者は、歌仔戲の小生（男性の役を演じる女性）と宝塚歌劇の男役の間に様々な差異を認めつつも、本質的な違いを感じていなかった。

歌仔戲の小生と宝塚歌劇の男役に共通する、女性が男性を演じる効果として、男性性と女性性（femininity）をあわせもった美しさや、現実の男性と距離のある虚構性、女性の理想の表現、女性にとって性的な面での安心感などが挙げられていた。これらは、女性性を持った男性像と、女性を脅かさない男性性のある男性像とまとめることができる。

このような男性像が日本と台湾で支持される背景として、女性的とされる性質の社会的評価が低いことや、男性中心的な価値観が浸透していることがあるのではないかと推測される。

(3)

最後に、宝塚歌劇とほかの女性向けポピュラーカルチャーに共通する男性像について分析するために、宝塚歌劇台湾公演の観客に対するインタビュー調査を分析した。

宝塚歌劇の男役は、女性の理想の男性像や、女性が思う男性美を女性自らが表現したものであり、その点が日本の少女漫画に通じると見なされていた。女性的な要素のある外見を持つ男性という点は、日本の男性アイドルにも共通する特徴として挙げられていた。この3つのジャンルには、外見と内面のジェンダー的性質が一致しない人物がしばしば登場する。そこでは、一般的に一貫性のあるものとして構築されるジェンダーを各要素に切断し、組み替えられている。

これらの女性向けのポピュラーカルチャーにおいて、ジェンダーを再構築することが可能になっているのは、特に宝塚歌劇と少女漫画における「西洋」という要素がかかわっていることが示唆された。これらにおいて「西洋」は現実の欧米とは異なる夢の世界として機能している。また「西洋」人が日本人によって演じられたり、日本人と同じ絵柄で描かれており、外見と属性設定が一致していない。そのため、外見と内面のジェンダー的性質を切り離れた形の人物造形が可能になりやすいのではないかと考えられる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

東 園子、「2.5次元ファンの舞台の見方 宝塚ファンとの比較から」、『美術手帖』、査読なし、1038号、2016、pp82-85

〔学会発表〕(計 5 件)

AZUMA Sonoko, "The Men of Her Dreams" in Japanese Popular Culture: Voices of Taiwanese Female Audiences of the Takarazuka Revue, Crossroads in Cultural Studies 2016, 2016. 12. 15., Sydney (Australia)

東 園子、日本の女性向けポピュラーカルチャーとしての宝塚歌劇の特徴 台湾の観客の視点から、日本社会学会、2016. 10. 8.、九州大学（福岡県福岡市）

東 園子、「台湾から見た宝塚歌劇 歌仔戲関係者の視点から」、中部人間学会、2015.11.28.、仁愛大学（福井県武生市）

東 園子、「ホモソーシャリティ再考 『宝塚・やおい、愛の読み替え』で残された課題についての試論」、日本マス・コミュニケーション学会、2015.10.31.、文教大学（神奈川県茅ヶ崎市）

東 園子、「台湾における日本のポピュラーカルチャーへの関心の形成過程 宝塚歌劇の観客を事例にして」、日本社会学会大会、2014.11.22.、神戸大学（兵庫県神戸市）

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

6．研究組織

(1)研究代表者

東 園子 (AZUMA, Sonoko)
大阪大学大学院人間科学研究科・招へい研
究員
研究者番号：40581301

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし